日本聖公会　川越基督教会

資料委員会　便り

ARCHIVES NEWS

第　9　号

（２０２３年９月）

教会に保管されている資料類の整理も８年目を迎え、毎水曜日に数名の奉仕者によって作業は進められています。全資料の目録作りは大方終わり、今はスキャン取り込み作業に集中しています。そうした中、新たな資料の発見、皆様方からの多くの資料提供もあり、これからも終わり無き作業に励んでまいります。

資料整理をし多くの資料に触れる中、１４０年の永き間、この教会に奉仕された多くの聖職、信徒の働きの様子が手にとるように見えてきます。資料委員会では資料を通してこうした先輩方の働きを学ぼうと委員会の名称を「歴史資料委員会」に変更いたしました。

保存資料の中には、紙資料の他に映像、音声による物もあります。故松村祐二さんが企画されたカセットテープによる「耳で聞く川越基督教会の歴史」全１２巻があります。礼拝堂建設当時の事から、戦前戦後の様子を約３０名の方々の証言が録音されています。テープの老朽化を考え、音声加工業者「ティアック社」にCD加工を依頼、この度全巻が完成しました。

この音声データもドロップボックス上に保存も考えております。皆さまのご家庭でこのテープを聞く事も出来るようになります。

教会歴史茶話会「教会の歴史資料にふれて」を３月に教会会館を会場にして開催されました。１４名の皆さんが集いお茶を飲みながら楽しく団らんのひと時をもちました。

教会歴史茶話会
ご案内

３月１５日（水）Pm１：３０～
教会会館にて

「教会歴史資料にふれて」

資料整理を通して、昔の教会の様子、聖職者、信徒の活躍を知ることが出来ました。
５０年前の壮年会座談会のテープも聞きましょう。

お茶を飲みながら楽しく集いましょう
ご参加ください・・

川越基督教会　歴史資料委員会

私たちの教会を紹介した書籍が２冊発刊されました。

川越の建物「近代建築編」　仙波書房刊

二つの教会をめぐる石の物語　宇都宮美術館刊

教会会館２階図書室に蔵書してあります。

今号は資料委員会メンバー４名の方々に原稿をお願いしました。
ぜひお読みください。

日本聖公会川越キリスト教会礼拝堂、「週刊ポスト」での紹介

ドゥエル・ベーリ作

「週刊ポスト」2023年7月21日28日合併号には日本聖公会川越キリスト教会礼拝堂が「ふらっと歴史建物探訪」NO. 430川越市松江町周辺というイラストコーナーで紹介されました(図1)。

イラストの説明に「春分と秋分の日には、西側のアーチ窓から差し込む光が祭壇を照らす光景が見られる」と書いてあります。今回の取材で以上の説明は十分ですが、その光景観察ができるように追加の説明が必要です。というと写真1の様な光景を見るために春分の日の次の日くらい観察する必要があります。又、似ているような光景は秋分の日の前日くらい見られます。2023年秋分の日の場合の光景観察は先日の9月22日（金）17時頃に見られます。

偶然ですが、川越キリスト教会の設立者田井正一司祭は寛永元年二月一八日生まれました（西暦1848年3月22日)。生年月日の前日は春分の日でした。毎年、田井司祭の誕生日頃川越キリスト教会礼拝堂にて祭壇を照らす光景が見られます。

以上の光景観察の邪魔になる2点があります、1）午後17時頃西側に雲があれば見られません、2）礼拝堂が1921年に完成されてから西側の障害物が少しずつ増えてきました。写真2は2023年7月10日現在、礼拝堂祭壇から西側のアーチ窓へ向かって、外の障害物が多いと見られます。建設中のマンションもさらに障害になります。

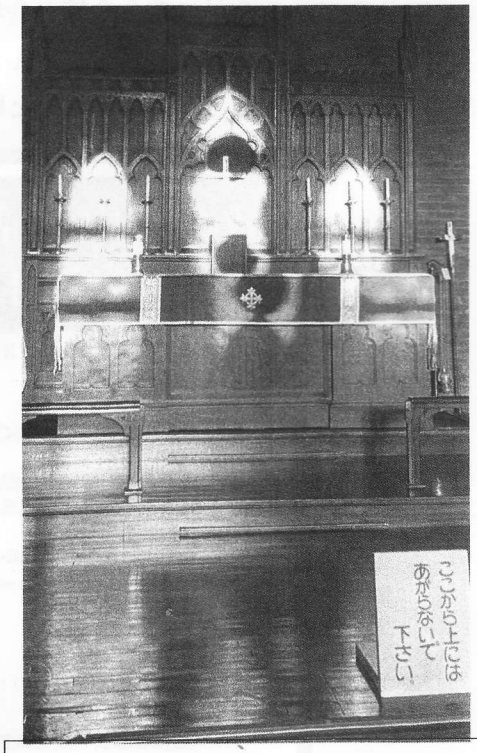


写真1　2020年3月21日 17時14分頃、川越キリスト教会礼拝堂にて祭壇を照らす光景

写真2　礼拝堂祭壇から西側のアーチ窓へ向かって、外の障害物が多い様子

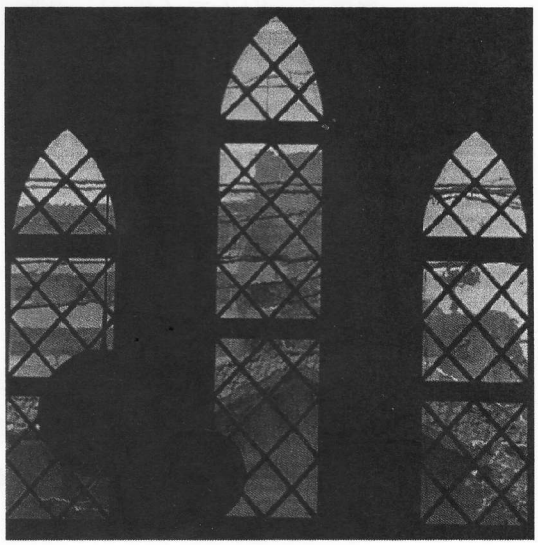


図　1

「週刊ポスト」掲載

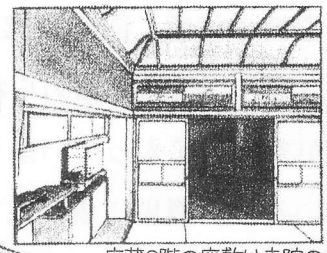
ふらっと歴史建物探訪 NO.430 川越市松江町周辺

モリノブユキ

巨大な漆喰
影盛と高く積
まれた箱棟
は商売繁盛
の証し！

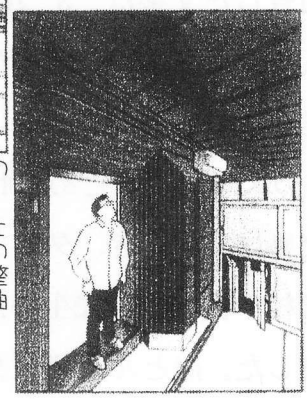
■原田家住宅（川越市指定文化財・史跡）

米穀問屋として栄えた「足立要」の店舗兼住宅。明治30年築の店蔵はいかにも川越の大店らしい豪華で重厚な構え。室内の造作にも、当時の職人の技が光っています。



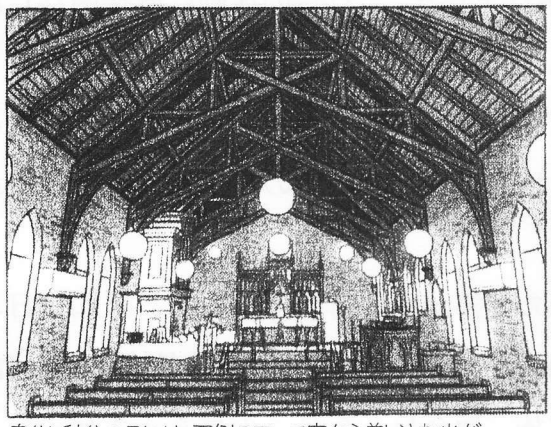
店蔵2階の座敷は寺院のような折上格天井。

店蔵と分厚い観音扉で仕切られている住居部分。その境目の天井には、高さを調整するために波打つような曲面処理が施されています。



■日本聖公会川越キリスト教会礼拝堂
（川越市都市景観重要建築物）
（国登録有形文化財）

大正10年に建てられた礼拝堂。チューダー様式を基本に、尖塔アーチの縦長窓などはゴシック調。焼きむらのある煉瓦を積んだ、落ち着いた雰囲気の建物です。



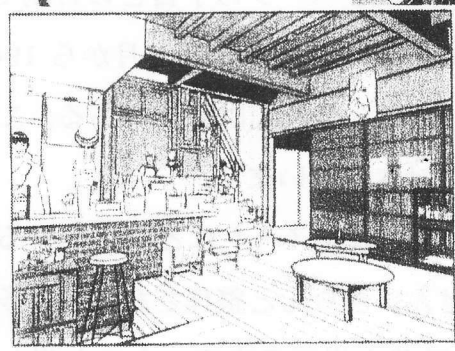
春分と秋分の日には、西側のアーチ窓から差し込む光が祭壇を照す美しい光景が見られるとのこと。

新旧2つの鐘が納められた鐘楼。

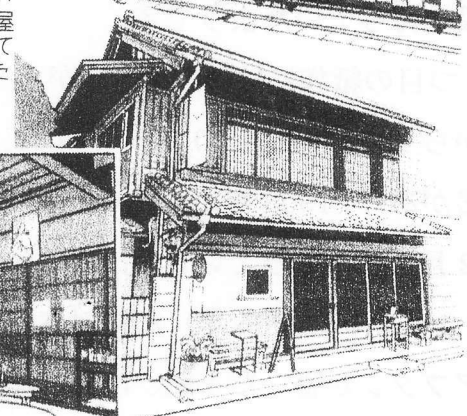
「ノアの方舟」をイメージした構造といわれる教会内部。挟み組み式の小屋組には棘状の突起がデザインされています。設計は立教大学新築のため来日したW・ウィルソン。

太田屋茶店

福田屋書店



旧店舗の土間部分はカフェラウンジとして開放。太い梁や箱階段など、往時の雰囲気を大切に残した造りになっています。



■太田屋茶店（川越市都市景観重要建築物）
■福田屋書店（川越市景観重要建造物）

細い路地をはさんで仲良く並んだ、ふたつの建物。パラペットの縦縞の意匠が個性的な太田屋茶店と、2階の柱形上部に並ぶリーフが目を引く福田屋書店。どちらも昭和4年に建てられた人造石洗い出し仕上げの洋風建築です。

■旧原田肥料店

築100年を超える商家を改修し、現在はゲストハウスとカフェを営む「ちゃぶだい」というお店に。古い建物を上手に活用する、川越らしい店舗です。

今回のコース　東武鉄道東上本線ほか川越駅→原田家住宅→日本聖公会川越キリスト教会礼拝堂→旧原田肥料店→太田屋茶店・福田屋書店

Daiwa House®

アプタン先生が書き残した日記類の整理を始めました

前田ジョイス

資料保管委員会のバリー・デュエル委員長と山本元前委員長のご好意により、エリザベス・F・アプタン（1880-1966）の生涯と仕事に関連する資料の整理を始めました。目録作りはこれからであり、最初の報告として、資料の状態、内容を感想文風に書くことにします。

閲覧した文書は、3つの大きな紙袋に詰められていました。3つの袋は、それぞれに大きな封筒が入れてあり、類似文書がまとめて入っていました。全てではないが、その封筒の表面に日本語のメモがあり、何が入っているかが簡単に書かれている。日付のあるものは、同じ年、あるいは2～3年のスパンでまとめられていました。

文書は、手書き、タイプとも英文が多い。アプタン宛ての個人的な手紙、様々な時代の日記、日曜学校や保育園の先生のための講義ノート、フランスや日本の歴史に関する手書きのメモなどがありました。ほとんどアプタンの筆跡と思われます。また、国内外のパンフレットの印刷物や、小布施のニューライフ療養所に関する帳簿のタイプ記録もありました。これらの活動に直接関与したかどうか不明ですが、参考のために保管していたのかもしれません。

使用されている紙は、大きさも質も様々でした。中には非常に薄く、破れる危険のある紙もあるが、ほとんどの紙は保存状態が良く、カビも少ない。これまで閲覧した紙の約半分に日付が書かれています。

最初の2つの袋には、1950年代から1970年代までの文書が収められています。米国や日本からアプタンに宛てた手紙も多数あります。季節の挨拶から、旅行、家族のこと、教会の活動など、さまざまな内容が書かれています。アプタンは友人、家族、教会員と数多くのコミュニケーション手段を持っていたようです。

3つ目の紙袋には、古い資料が入っています。埼玉県浦和で書かれたものと思われる、1911年2月から1911年3月20日までの39ページの手書きの日記です。その他に、日記と題された3つの文書があり、1953年から1956年まで、1963年8月から1964年3月まで、1964年3月から1965年2月までとなっています。これらの日記は未読である。この紙袋には、米国旅券（1929年、1947年、1951年、1965年）が同封されています。

アプタンが書いた手紙、日記、講義ノートなどに含まれる具体的な情報については、今のところ詳しく述べることができません。きちんと整理され、より多くの人に公開されることで、教会や地域の人々が、アプタンをその時代と場所の中の一人の人間として理解できるようになればと願っています。

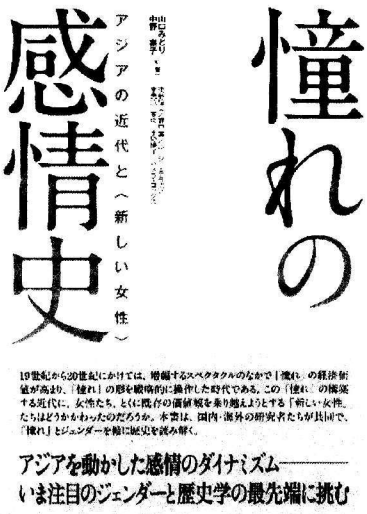
（２０２２年１２月　記）

【筆者紹介】　前田ジョイス　　米国カリフォルニア州生まれ　　１９７３年初来日　　現坂戸市在住

東京国際大学にて２２年間教員を務める　　川越基督教会歴史資料委員会研究員

山口みどり・中野嘉子編著『憧れの感情史――アジアの近代と〈新しい女性〉』作品社、2023年

20年以上前のこと。博士論文のための調査でSPG女性宣教師の応募書類を読んでいた私は息をのみました。20世紀初頭、日本に派遣された女性たちはスゴスギル。オックスフォードやケンブリッジで学び、学位を持ち、名門女子校で教える「新しい女性」たち。選考委員たちを魅了した「完璧なレディ」たち。彼女たちはその日に備えて刻苦勉励に励み、あるいは親の遺産が入ったことを契機に職を辞し応募したのです。可能な場合は私費を投じて。でもなぜそこまで？　その原動力は？　なぜ日本に？



数年前にアジアを研究する女性研究者たちと「新しい女性」をテーマとした共同研究の機会をえたとき、この女性宣教師たちをめぐる「憧れ」の力学に光を当てたいと思いました。異教徒たちの、本国の出資者、奉仕者、さらには宣教師志願者たちの心をいかに捉え、憧れさせ続けるか――当時、これは列強の勢力争いに関わる大問題で、日本宣教は格好の舞台となります（第1章「アジアに見せたい、アジアを魅せたい――「新しい女性」とイギリス国教会の宣教戦略」）。

宣教の世界だけではありません。近代に顕著な発達をみた教育、商業、広告業、メディアは、「憧れ」という感情を育て・掴み・操る手段だと考えることができるのではないか？　本書は、そうした視点から近代という時代をジェンダーを軸に読み解いていきます。他の章が扱うのは：近代エジプト女性と「ヴェール」、オランダ領東インド初の現地語女性誌、植民地ビルマでフィルムに収められた女性の「自由」、朝鮮人留学生金マリアらの独立運動と秘められた「憧れ」、宝塚少女歌劇団が全力で演出した「憧れの地 満洲」、トルコの「国父」ケマル・アタテュルクによる養女を使った近代化政策、JALの国際線運航開始とスチュワーデスを使ったブランディング、イギリスのショップガールなど、「新しい女性」に関わる憧れです。お手に取っていただければ幸いです。　　山口　みどり

資料委員会で見つけたこと

若宮　光子

毎週水曜日の 14:00 から資料委員会の作業は始まります。
思い起こせば 2015 年、教会にある膨大な、かつ、重要な資料をどう残していくか、どう保存していくか、どう伝えていくかなど議論したことを思い出します。
まず、福島司祭が整理して分類してくださってあったたくさんの資料をパソコンに入力することとなりました。
その後、それぞれの資料をスキャンしてデータとして残す。
それらのデータを基にブリュンガー省己さんが「教会歴史 HP」を作ってくださっています。
現在も着実に内容は充実してきていますが残念なことにこの HP はまだ一般公開はされていません。
悩ましいことですが個人情報に関しては細心の気配りが必要だからです。
でも、もし、この「歴史資料 HP」をご覧になりたいと思われましたらどうぞお声がけください。いつでも閲覧できます。
その「個人情報保護法」についても当教会の法律の専門家である田村さんをお呼びして勉強会を開いて話し合いました。
この委員会の創立当時から今に至るまで、水曜日の作業の時にご訪問くださった方々は、川越市博物館館長、県立歴史と民族の博物館館長、日本基督教団信徒さん、大学で宗教を研究されている教授、当教会の昔からの信徒さん、東京聖テモテ教会の皆様などがおられます。
作業している時に懐かしい記事・写真を見つけて話が弾み作業が中断してしまう事も少なくなく、教会の厳しい時期まさに歴史を目にして教会の先輩たちの苦労と喜びを直接感じられるのもこのご奉仕をしていて良かったと思うことです。
又、宣教 140 周年記念事業の一環として、教会に係わる古い場所を山本元さんの案内で皆さんと訪れたのも楽しい思い出です。

「歴史資料ＨＰ」はまだ公開されていませんが、「当教会のＨＰ」では今迄の資料委員会の歩みが見られます。どうぞご覧になってください。
そして、これらの貴重な実物資料を見たいと思われる方はいつでも資料委員会にいらしてください。
教会の礎を築いた今は亡き先輩達、あるいは現在もお元気な方々の若かりし頃の教会での働きなど思いがけない発見を探しに！